

グループ名 ・代表者名	高知県太平洋核実験被災支援センター 山下 正寿	助成金額	50万円
連絡先など	Eメール masatosi.sky@orange.zero.jp		
助成のテーマ	ビキニ事件の実相と福島原発被災との関連調査・研究		

【調査研究の概要】

「ビキニ水爆実験による第五福竜丸以外のマグロ船と貨物船などの被災の実態と乗組員の健康状態追跡調査」にこれまで取り組んできた。次年度も、この取り組みを続け、福島原発被災の今後の健康対策に活かしたい。また、海洋汚染が長期化する中で、ビキニ事件のように汚染魚検査が打ち切られる可能性もあり、ビキニ事件の歴史的検証が改めて重要になっている。

これらの調査・研究とともに、ビキニ事件の再認識のため、DVD上映、学習・講演会開催、書籍の普及を同時に広げたい。

【調査研究の経過】

5月 ・福島の漁業調査と「福島・高知」の学習交流活動の旅を実施

8月 ・韓国でビキニ・原発問題を調査する。

9月～ ・「放射能をあびたX年後」上映会開始(全国)

・「核の海の証言」発行

3月 ・広島大学放射線医科学研究所と被災船員健康調査を協議

・福島高校生「種まきうさぎ」を幡多地域に迎え学習交流

【今後の展望など】

1、調査結果を各地の学習会、集会などに参加して報告しビキニ事件と福島原発被災関連調査を全国的に広げる。

2、今後の被災漁船員・遺族のための支援策、なかでも専門医による健康・生活相談会の実現をよびかける。

3、日本政府にビキニ被災船員の再調査を求めるために、調査研究の成果と資料を厚生省に届ける。

会計報告書の概要 (金額単位:円)			充当した資金の内訳		
支出費目	内 訳	支出金額	高木基金の 助成金を充当	他の助成金 等を充当	自己資金
旅費	福島(1回×1人)東京(3回×1人)、韓国(1回×1人)、高知・室戸・幡多、打ち合わせ会、事前調査、本調査参加者の旅費・宿泊費、	479,530	440,290		39,240
資料費	本、DVD購入	12,000	12,000		
機材・備品費	印刷トナー、DVDテープ、ファイルなど	20,000	20,000		
通訳料	韓国(10千円×2日×1人)	10,000	10,000		
その他	資料の郵送料	17,710	17,710		
合 計		539,240	500,000		39,240

調査研究の完了報告から：高知県太平洋核実験被災支援センター

「ビキニ水爆実験による第五福竜丸以外のマグロ船と貨物船などの被災の実態と乗組員の健康状態追跡調査」にこれまで取り組んできた。

日米で「政治決着」されたビキニ事件は極めて調査が困難であり、調査に年月がかかる。被災船員は高齢化とともに健康を害し、癌の発生率が高まり、「死の灰」を受けた被災船の船員の3分の2近くがすでに死亡している。同地域での同世代の男性との比較研究や、専門医による健康診断が希求されている。

1990年代になって米エネルギー省は核実験による人体への影響に關連する文書を大幅に公開しはじめた。生存者による証言を米公文書による検証を行うことは緊急に取り組まねばならない。

ビキニ水爆実験の放射能汚染は地球規模であり、放射能雨や海洋汚染の福島原発被災と比較研究する。また実験海域にいた漁船員の放射能内部被曝の健康影響実態を明らかにすることにより、福島原発被災の人体への影響を予測し、対策を立てる上で参考にする

ビキニ事件の実相を広く国民に知らせる活動が、福島原発被災救済の上でも重要で緊急な課題となっている。

本年度も、この取り組みを続け、福島原発被災の今後の健康対策に活かしたい。また、福島原発事故による海洋汚染が長期化する中で、ビキニ事件のように汚染魚検査が打ち切られる可能性もあり、ビキニ事件の歴史的検証が改めて重要になっている事を本「核の海の証言」やドキュメンタリー映画「放射能を浴びたX年後」等を通じて伝えることができた。

ビキニ事件時に問題となった事件対応を追跡し、現在の福島原発事故をどのようにとらえているかの情報収集を行う。

これらの調査・研究とともに、ビキニ事件の再認識のため、DVD上映、学習・講演会開催、書籍の普及を同時に広げたい。そのために高知県太平洋核実験被災支援センター、平和資料館・草の家、安芸平和教育研究会、幡多高校生ゼミナールなど、研究協力者の協力を得て調査・研究とともに、ビキニ事件と福島原発被災を結ぶ学習活動にとりくみたい。

その上で、被災者に可能な支援策を民間と政府双方にわたって広島大学放射線医科学研究所など専門家の意見を集約し、提案する。

ビキニ事件の調査研究は、事件の多様性からみて、多くの人々のネットワークを活かした協同の取り組みが必要である。そのためにも、被災者、研究者、支援者がともに参加する活動を重視し、「学び、調査し、表現する」活動に青年の参加を呼びかけていきたい。被災者を励まし、希望をもたらす力となる大学生・高校生の参加を広げていく。

福島の高中生との交流を活かし、ドキュメンタリー映画「フクシマに向き合う青春」を製作する取り組みを始めている。

以 上